

(令和4年1月4日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識編) >
(人口オーナス、労働力人口)

「2025年問題」、団塊の世代のすべての人が75歳以上の後期高齢者となることで、社会保障・福祉などに大きな影響を与えるといわれています。団塊の世代は戦後のベビーブームで誕生した1947年から49年に生まれた人達。1947年生まれの人が今年から75歳以上になります。下表は、総務省統計局から発表された21年12月1日現在の日本の人口・概算値。表の濃い黄色部分が団塊の世代、薄い黄色部分が団塊ジュニア世代です。

| 日本の人口(2021年12月1日) 概算値 | | | | 人口：単位・万人 | |
|-----------------------|-----|-------|-----|----------|-----|
| 年齢 | 人口 | 年齢 | 人口 | 年齢 | 人口 |
| 0～4 | 437 | 30～39 | 734 | 70～74 | 964 |
| 5～9 | 503 | 40～44 | 814 | 75～79 | 673 |
| 10～14 | 535 | 45～49 | 969 | 80～84 | 561 |
| 15～19 | 559 | 50～54 | 935 | 85～89 | 388 |
| 20～24 | 626 | 55～59 | 781 | 90～94 | 192 |
| 25～29 | 639 | 60～64 | 738 | 95～99 | 55 |
| 30～34 | 654 | 65～69 | 782 | 100～ | 9 |

総務省統計局 人口推計2021年(令和3年)12月報より作成

内閣府の「選択する未来」では、人口急減・超高齢化社会の問題点、経済社会に及ぼす影響として①「経済規模の縮小—人口オーナスと縮小スパイラルが経済成長のブレーキに」、②「基礎自治体の担い手の減少、東京圏の高齢化」、③「社会保障制度と財政の持続可能性」、④「理想の子ども数を持たない社会」をあげています。労働力人口の減少が経済にマイナスの影響を与えるのが「人口オーナス」、逆に人口の増加が経済活動にプラスの影響を与えるのが「人口ボーナス」。「選択する未来」では、労働力人口(=就業者+失業者)は、2014年の6,587万人から、30年5,683万人、60年には3,795万人に減少、60年の労働力人口の割合は約44%が想定されています。ちなみに、2021年11月の労働力調査(基本集計)では、日本の労働力人口は、対前年同期比で▼70万人減少、6,832万人。労働人口比率は62.0%(内男性71.2、女性53.3%)。65歳以上は25.7%となっています。

海外に目を向けると、米国は直近の人口増加率は低下してきましたが、相変わらず増加を続けています。マーケット、人口オーナスが想定される日本の魅力は何か…。少なくとも縮小スパイラルに陥らない政策を打ち出して欲しいところです。加えて、昔は所得倍増計画、日本列島改造、最近では郵政民営化、アベノミクスなど、人口ボーナスで築き上げてきた財産の次世代への継承を含めて、歴史に残る政策を求めているように思います。

(了)